

# 戦略性が高く、意欲的な目標・計画に係る取組 Strategies for Third Medium-term Goals and Medium-term Plans

「戦略性が高く、意欲的な目標・計画」とは  
平成28年度から6年間の大学運営方針をまとめた第3期中期目標・中期計画の中でも、特色ある活動や高い目標を掲げている目標・計画です。  
以下に「戦略性が高く、意欲的な目標・計画」の2つのテーマより取組を紹介します。

【テーマ①：文理を超えた幅広い視野を持ち世界に通用する女性リーダーの育成】に係る取組

## ●理工系教育のあり方を研究開発するとともに、女性リーダーの育成拠点として、教養教育を基礎とした教育プログラムを確立する

奈良女子大学は平成27年にお茶の水女子大学と共同で理系女性教育開発共同機構を設置しました。多くの女性が中等教育段階の理数教育に興味・関心を示さず、理工系進学を目指そうとしない現状に鑑み、女性の理工系学問への関心を惹起することができる新たな理数教育のモデルを、中等教育のレベル、大学教育のレベルそれぞれに確立することを目指しています。

令和2年度は高校生を対象に、オンライン形式で統計やプログラムを実際に体験してもらう講座を開きました。参加した近畿圏及び全国の高校生からは、今後も統計やプログラミングを使い、課題研究に活かしたい等の前向きな意見が多く聞かれ、女子高校生の理系科目への関心を高めることができました。



【テーマ②：大和・紀伊半島から世界へ、世界から大和・紀伊半島へ、教育研究のグローバル化の推進と地方創生】に係る取組

## ●大和・紀伊半島地域の地方創生につながるための教育研究を推進する

平成27年度に採択された地(知)の拠点大学による地方創生推進事業「共創郷育:「やまと」再構築プロジェクト」(COC+事業)は、令和元年度末に補助事業期間が終了しましたが、引き続き、学生が地域の中に入り、課題発見・調査・研究する体験型学修プログラムや、県内自治体、企業等の協働機関との間で築かれたネットワークの活用を通じて、地方創生に寄与する人材の育成に取り組んでいくと共に、同事業を大和・紀伊半島地域の文化的・歴史的価値の再発見のための研究と連動させることを目指します。



# 最近のトピックス Topics

## ●「奈良国立大学機構」を設立します。

国立大学法人奈良教育大学と国立大学法人奈良女子大学を法人統合して「国立大学法人奈良国立大学機構」を設立するための法律「国立大学法人法の一部を改正する法律」が5月21日公布されました。これにより、令和4年4月新法人が誕生します。奈良女子大学に新法人の本部が置かれ、新しい本部棟も新築されます。

新法人の下、奈良女子大学は、奈良教育大学とともに、「学修者の主体的な学び」をガバナンスの中心に据えた新たな教育・研究拠点の創出を目指し、法人統合のシナジー効果を活かしながら種々の取組を推進していきます。

また、新法人が核となり、奈良県下の国立教育・研究諸機関、関西文化学術研究都市や地域の企業との連携体制を構築し、高等教育の新たな統合化(奈良カレッジズ)を目指していきます。



## ●令和4年4月、日本の女子大学初となる「工学部」を設置します。(設置構想中)

理工系人材の養成に対する社会の要請に応えるため、幅広い教養や基礎的な知識に立脚する応用力とコミュニケーション能力を兼ね備え社会にイノベーションを起こす工学系女性リーダーの育成を目指し、令和4年4月に新たに工学部工学科(入学定員45名)を設置する予定です。これは、私立も含めた日本の女子大学では初の工学部設置となります。

本学部では、奈良女子大学の伝統的な学問「家政学・生活科学」に根ざし、生産し供給する側からではなく、生活し需要する側から「ものづくり」を捉える奈良女子大学ならではの工学を目指しています。学問分野として、デバイスで計測した人間からの情報を処理して個人に適応したモノやサービスを創出する「人間情報分野」と、快適な住環境や社会環境を実現するための素材やデザインを創出する「環境デザイン分野」の二つの分野を設け、学生はそれぞれの分野で専門知識と技術を学修します。また、学生の主体的な学びを育むために、幅広い選択肢の中から履修科目や履修年次を学生が自律的に決めることや、異分野との協働力を涵養するためのPBL科目を導入するとともに、カリキュラムマップに基づくポートフォリオを作成し学生の成長を可視化することにより教員が適切に指導助言し、ディプロマポリシーに基づく学びを保証することを特色としています。



## ●令和4年4月、生活環境学部を改組し「文化情報学科」を設置します。(設置構想中)

令和4年4月に生活環境学部生活文化学科と情報衣環境学科を改組し、文化情報学科を設置する予定です。

本学科では、ジェンダー平等に代表される現代社会・人間社会に関する理解とSociety 5.0時代に不可欠なリテラシーである数理・情報を適切に活用する素養を併せ持ち、生活者の視点と文理循環的思考から自ら考え議論をして提言し、豊かで活力ある未来を主体的に創ることができる女性人材を育成します。

教育の実施においては初年次に学科共通科目を通じて文理横断・文理循環型教育を行い、高年次に向かうにつれて専門特化させるという方法を採用し、学科には生活文化学コースと生活情報通信科学コースの2コースを設けます。

